



リージョンマトリクスの更新

この章では、BATの[リージョンマトリクス (Region Matrix)]メニューを使用して、リージョン (地域) マトリクスの設定または設定解除を行う方法について説明します。リージョンテーブルでは物理的な場所を定義するのに対して、リージョンマトリクステーブルではリージョン内部およびリージョン間の使用可能な帯域幅を定義します。

- ・ [リージョンマトリクスの実装と実装解除 \(1 ページ\)](#)

リージョンマトリクスの実装と実装解除

BAT を使用して、リージョンマトリクスを実装または実装解除します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [リージョンマトリクス (Region Matrix)] > [リージョンマトリクスの実装/実装解除 (Populate/Depopulate Region Matrix)] の順に選択します。[リージョンマトリクス設定 (Region Matrix Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [リージョンマトリクスオプション (Region Matrix Options)] セクションで、必要な操作に応じて [リージョンマトリクスの実装 (Populate Region Matrix)] または [リージョンマトリクスの実装解除 (Depopulate Region Matrix)] を選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの名前を入力します。これにより、ジョブの識別が容易になります。
- ステップ 4** ジョブを実行するタイミングとして、[今すぐ実行 (Run now)] または [後で実行 (Run later)] を選択します。
- ステップ 5** [Submit (送信)] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、送信したジョブのステータスを確認します。

必要に応じて、このウィンドウを使ってジョブを再スケジュールすることができます。

- (注) 他の BAT プロセスとは異なり、リージョンマトリクスを実装または実装解除するジョブの進捗度は、成功/失敗した、または処理されたレコード数として測定できません。プロセス全体が完了して初めて、結果を確認できます。

(注) レコード数の基準は、このトランザクションには当てはまりません。

管理者はリージョン帯域幅デフォルトを変更できますが、BATメニューを介してそれを行うことはできません。

(注) リージョン帯域幅デフォルトにアクセスするには Cisco Unified Communications Manager で [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。パラメータタイプが Cisco Unified Communications Manager を示し、該当する 4 つのパラメータが [クラスタ全体のパラメータ (Clusterwide Parameter)] ([システム (System)] - [ロケーションとリージョン (Location and Region)] セクションに含まれます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。